

ポストコロナ

みんなで考えよう！

一中校区小中一貫校計画「こんな学校でいいのか?！」



新型コロナウイルスのパンデミックのもと、世界でも日本でも政治と社会のあり方が問われ、新たな社会の姿が模索されています。

国会では、コロナ後の学校のあり方として改めて少人数学級が注目され、「安全安心な教育環境を 20 人学級を子ども達にプレゼントしよう」という議論がはじまっています。

狭い敷地に 1000 人越え 3 密! ギューギュー詰め!



62 億円以上も使って

現在の概算事業費は、61億6100万円となっています。
(この費用には長宝寺小を一時使用する仮設校舎・校舎改修費用などは含まれない)しかし、3校すべての校舎を長寿命化や大規模改修にすれば、一貫校建設よりはるかに低金額で実施することができます。広く使えて安くつく計画と、過密になって高くつく計画どちらが合理的でしょうか?

国の経済財政諮問会議 骨太の方針に「少人数指導」盛る!

国は、7月8日の経済財政諮問会議で、経済財政運営基本方針「骨太の方針」の原案を示しました。教育の分野では、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、「緊急時においても、安全・安心な教育環境を確保しつつ、全ての子どもの学びを保障するため、少人数指導によるきめ細やかな指導体制の計画的整備」が盛り込まれました。

この問題で日本共産党は、1クラス20人学級程度の少人数学級を実現するため、教員を10万人増やすなど教育条件の抜本的整備を求め、提言発表や国会で取り上げるなど議論を進めています。コロナ禍の中、大規模から少人数へと舵が切れようとしているのに、なぜ今のタイミングで大規模!過密!の学校を建設しなければならないのでしょうか?

「コロナ後の学校はどんなべきか?」
施設一体型小中一貫校の計画は見直しを

一中校区の施設一体型小中一貫校基本方針・基本計画では、長宝寺小・交野小・一中の児童生徒が集まるため、現在の倍近い1,100人以上になります。

《現状との比較》

	R2年度 交野小学校	R7年度 小中一貫校
敷地面積	21,243 m ²	23,249 m ²
児童数	573 人	1,111 人

狭い敷地に詰め込むことは明らかであり、まさにマンモス・過密学校になることは避けられません。コロナ後の学校づくりは安全確保のため、密を避け余裕を持たせた計画が必

要です。あえて今、過密な学校をつくることは子ども達の安全に背を向ける無責任な計画だと言わざるを得ません。コロナ前作成の計画は見直すべきと考えます。